

滋賀県文化プログラム取組方針（概要）

1 背景

2020年に東京でオリンピック・パラリンピックが開催（東京2020大会）。オリンピック・パラリンピックは、スポーツの祭典であるとともに、文化の祭典。日本が持つ地域性豊かで多様な文化の魅力を活かして全国で文化プログラムが展開。

2 滋賀ならではの文化を活かした文化プログラムの推進

滋賀には多様で特色ある文化的資産が存在

長い歴史を背景とした自然と共生する文化、里山・棚田等の生活文化、祭り・食文化、伝統的工芸品、神と仏の美、主要街道や町並み等の歴史文化、文化財・史跡、芸術文化、アール・ブリュット等。

滋賀ではワールドマスタースゲームズ2021関西、国体・全国障害者スポーツ大会（2024年）が開催

県外からの多くの来訪が見込まれる中、障害の有無等にかかわらず多くの県民の方が文化に親しみ、文化を通じた交流が盛んに行われることが重要。

文化プログラムを通じた文化的資産の価値の再認識、魅力向上、文化の継承・発展・創造へ

文化プログラムを通じた相互理解の促進、地域活性化、健やかな滋賀の実現へ



文化、スポーツ、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、環境、産業その他の多様な分野の関係者が行う文化活動の一層の活発化と地域の活性化につながるイベントや発信活動を「文化プログラム」として推進

3 取組方針の位置づけ

「新しい滋賀の魅力をつくる文化・スポーツ戦略」、「滋賀県文化振興基本方針（第2次）」を踏まえ、多様な主体が文化プログラムを推進するための指針

4 取組の期間

平成30年（2018年）～平成32年（2020年）

※成果をワールドマスタースゲームズ2021関西、平成36年（2024年）の国体・全国障害者スポーツ大会に継承・発展

5 取組の方向性

(1) 文化の力を活かした創造的な地域づくり

- ・「美の滋賀」づくり、音楽祭、大型観光キャンペーンなどこれまでの取組の発展
 - ・知名度の高い素材と歴史、食文化、祭りなど多様な文化的資産の組合せ
 - ・ネットワーク構築による広域的な事業展開・情報発信 など
- ⇒ 滋賀ならではの文化的資産の発掘、再評価、活用による魅力あふれる創造的な地域づくり



(3) 文化を通じた共生社会の実現

- ・障害の有無等にかかわらず誰もが鑑賞や創作に親しめる環境の整備
 - ・文化を通じて障害等の有無にかかわらず交流が深まる取組
 - ・障害のある方々の国内外での展示・公演等による国際交流
- ⇒ 障害等の有無にかかわらず相互の理解が深まる共生社会の実現



(2) 文化を通じた国際交流の推進

- ・ホストタウンの枠組み等を通じた文化交流
 - ・案内表示、印刷物、ホームページ、SNSの多言語対応 など
- ⇒ 文化体験を通じた国際交流、訪日外国人旅行者の増加による地域活性化



(4) 未来の文化の担い手の育成

- ・小中高校、特別支援学校や大学などの教育機関との連携による子ども・若者の文化活動への意欲を伸ばす取組
 - ・祭り・文化財などの継承に向けた課題共有・方策検討
 - ・幅広い県民の参画により地域の文化を支える機運の醸成 など
- ⇒ 積極的な県民の関わりのもと担い手を育成



6 滋賀文化プログラム推進会議

- ・国（文化庁地域文化創生本部）・県・市町、県・市町教委、文化施設、文化関係団体、経済・観光関係団体、大学、社会福祉法人など各主体の取組の情報共有・意見交換を行うプラットフォーム
- ・文化財を活用したまちづくりや観光振興、民間団体と行政の連携強化などのテーマに関する課題共有・取組検討

7 幅広い県民の参画促進

①東京2020参画プログラム

②beyond2020プログラム

- ・県において「beyond2020プログラム」の認証窓口となり県内の団体等の利便性を向上
- ・市町等とも連携しながら情報提供・相談対応
- ・滋賀らしい機運醸成手法の検討



8 発信力の強化

- ・紙媒体、ホームページ、SNSなど各種媒体を組み合わせた広報の充実
- ・「ここ滋賀」の活用による国内外の方々の滋賀へのいざない
- ・滋賀の文化の魅力を総合的・効果的に発信できる方策の検討